

タンパク質GPIアンカーの 生物学的・医学的意義

ヒトの様々な細胞の表面には数千種類のタンパク質があり、細胞間あるいは細胞と周囲の環境との相互作用に働いている。そのうちの150種類以上のタンパク質は、GPIアンカー型タンパク質である。これらはグリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)と呼ばれる糖脂質によって細胞膜に結合している。GPIアンカー型タンパク質の中には、病原微生物を破壊する補体の作用から自身の細胞を保護する補体制御因子などが含まれている。

本講演ではタンパク質GPIアンカーの生物学的・医学的意義について議論したい。

大阪大学 微生物病研究所

木下タロウ先生

プロフィール

東京大学農学部を卒業。1981年に大阪大学大学院医学研究科で博士課程を修了(医学博士)。大阪大学医学部助手、講師などを経て、1990年から2017年まで大阪大学微生物病研究所教授を務める。

2017年には、細胞表面のたんぱく質「GPIアンカー」が作られる仕組みを解明し、てんかんなどを伴う「先天性GPI欠損症」を発見、血液の疾患「発作性夜間ヘモグロビン尿症」が起こる原因も特定したことで武田医学賞を受賞している。



賞罰

- 2001年 第19回大阪科学賞
- 2010年 文部科学大臣表彰
(科学技術賞:研究部門)
- 2015年 International Glycoconjugate Organization (IGO)
Award 2015
- 2017年 武田医学賞
- 2017年 日本免疫学会ヒト免疫研究賞

主催: 武庫川女子大学 バイオサイエンス研究所

連絡先: yakuz@mukogawa-u.ac.jp

0798-45-9931 (薬学部事務室)

日時: 2018年 **1月18日** (木)

15:00~16:30

場所: 武庫川女子大学

中央図書館 2階

グローバル・スタジオ

(〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46)

参加**無料** 申込**不要**
ぜひ、御参加ください!

